

今週のことば	「クリスマスの喜び~光はやみの中に輝いている~」 (イザヤ書45章22節~25節) 「地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神だ。ほかにはいない。」(45:22) (ヨハネの福音書1章1節~14節) 「この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。」(1:4-5)
--------	---

今日のメッセージ要旨

◎今日ほど暗闇が満ちていると思わざるをえない状況を見るとき、すべての人を照らすまことの光であられる御方が来られた喜びを身にしみて考えたい。

◎イザヤ書45章の主題は「歴史を支配する唯一の神」です。神様はバビロン捕囚となってイスラエルの民を解放するために異邦の王クロスを用いられたのです。そのためにクロス王は「油を注がれた者（神様がその任務のために、特別な能力を与えられた者）」なのです(1)。神様は、クロスがバビロンを滅ぼし、イスラエルの民を解放するために、彼を召されたのです。この宇宙に存在する一切のものの創造者である神様が、異邦の王にも正義と救いをもたらすようにと命令される御方なのです。それは人間的な方法や不正な手段によってではなく、神様の一方的な恩恵による御業なのです。そしてイスラエルと同様、神様の民の仲間の一人となるために召されたのです。

神様は、地の果てのすべての者に対して、「わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしは神である。ほかにはいない。」と言って招いておられるのです(22)。

そのために神様は、イエス・キリスト様をこの地上に人の姿をもって遣わし、すべての人の贖いの御業を完成させようとされたのです。御子イエス・キリスト様は十字架に架かり、贖いの御業を完成してくださったのです。そのイエス・キリストを「仰ぎ見なさい」と招かれているのです。この方例外に救いはないのです(使徒の働き4:12)。

◎ヨハネの福音書1章の序文には「イエス様の生涯と活動を、その根源にさかのぼり、創造のわざとそれを超えた永遠のことばの存在を」を書き起こしているのです。最初に「ことば」は「神であった」(1)、「ことばは人となって、私たちの間に住まわれ」(14)、「父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされた」(18)、ことば=神、ことば=イエス、イエス=ひとり子なる神、との明確な告白です。主イエス様は「天地創造」の前に存在された方であり(箴言8:22~31、ピリピ2:6~11、コロサイ1:15~18)、創世記1章の天地創造の出来事が、主イエス・キリストの来臨により新しい天地創造の開始であることの明確な証言なのです。主イエス様は「いのち」であります(3:15, 16, 5:24, 26, 40, 6:27, 35, 40, 47, 48, 51, 53, 54, 68, 10:28, 11:25, 14:6, 17:2, 3, 30:31)。また「光」であります(8:12, 9:5)。主イエス様を信じる者には「永遠のいのち」を与えられ、「いのちの光を持つ」者とされているのです。バプテスマのヨハネはその真の光であられる主イエス様の道備えをするために遣わされたのです。主イエス様は「肉体を持って」私たちの所に来て下さった御方です(ピリピ2:7, ヘブル2:14)。主イエス様こそ私達の内に住まわれる神様であられ、御子の輝きを見た者は神様を見たと言うことが出来たのです(14:7~9)。「恵みとまことに富む」御方(出34:6)が世に来られたのです(17)。

『この方を受け入れた人々、即ち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。』(12)。新しく創造される恵みに与りましょう。」